氏　　名	濱口　俊一
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	乙第３４４号
学位授与年月日	令和８年３月１７日
審査委員	主査　教授　　川畑　茂
	副査　教授　　岩下　義明
	副査　教授　　山本　寛斉

論文審査の結果の要旨

慢性閉塞性肺疾患（COPD）の診断にはスパイロメトリーによる気流制限の存在を証明する必要があるが、一般医院ではスパイロメトリーが普及しておらず、COPDが見過ごされている可能性がある。そのためスパイロメトリーを使用しない、問診表でのCOPDスクリーニングが注目されている。 申請者らは、欧米で主に用いられているCOPD診断質問票IPAG（International Primary Care Airways Group)が日本人でも有用か否かの検証、そしてさらに有用なCOPD診断質問票の開発を目的に研究を行った。島根県の一般医院を訪れた患者で、40歳以上で活動性の呼吸器疾患がなく、COPDと診断されていない方々を対象とした。IPAG質問票ならびに本研究独自の質問項目を加えCOPDに関連した症状の問診を行い、同時にスパイロメトリーを行い、COPDの有無を診断した。

適格対象者の842人のうち、109人がスパイロメトリーで閉塞性換気障害を認めCOPDと診断された（有病率は12.9%）。IPAG質問票を用いたCOPD診断の感度は96.3%と高値であったが、特異度が28.8%と低値であった（欧米の特異度は77.0%）。多重ロジスティック回帰分析の結果、本研究独自の質問項目である「労作時呼吸困難の有無」が、COPDの検出に有用であることが判明した。そこで、①オリジナルのIPAG質問票と②「労作時呼吸困難の有無」を追加したModified IPAG質問票をAUC-ROCで比較したところ、Modified IPAG質問票でAUCが高値であった（AUC-ROC 0.778 vs 0.786）。Modified IPAG質問票が、高齢日本人のCOPD症例のスクリーニングに有益であることが判明した。